

洋書輸入協会会報

VOL. 17
NO. 2

(通巻190号) 昭和58年2月

新年懇親会

洋書輸入協会恒例の新春賀詞交換会は、1月11日(火)、東京プリンスホテル、サンフラワーホールで開催された。年々盛大になり、今年も昨年を上回り最高の86社、218名を数えた。文化厚生委員長の三洋出版貿易 伊部社長の司会で定刻の6時に始まる。先づ理事長 飯泉新吾氏(丸善会長)が「健康で新しい年を迎え同慶にたえない。物価は安定しているものの、政治、経済の前途は多難である。業界にとって最大の課題は国家予算がマイナスシーリングというきわめて厳しい状況に直面していることである。僅かな救いは円高傾向にあり、円が回復していることと、アメリカの金利の下げがあり日本のファンダメンタルズが評価されてきている点にある。貿易摩擦もますます激しく、業界がこうした中でいかに対処すべきかを改めて見直し、立向ってゆかねばならない。」という挨拶があった。ひきつづいて紀伊國屋書店 松原社長の「会員の健康と企業の繁栄を祈って」と乾杯の音頭があり、これも恒例となったメクレンブルグ社 鈴木社長による記念撮影のための乾杯のアンコールなど、なごやかなうちにパーティーに入った。

年々参加社、人員がふえているので、今年から胸の名

札を大きくし、社名、氏名を明確にしようという文化厚生委員のはからいのせいか、今年は歓談の輪も一層広がり、懇親も深められたように思う。飲物や料理もすすみ、7時30分に洋販 渡辺社長の「年々盛会になり嬉しく思う。幹事役の三洋出版貿易さんに感謝する。業界発展のために、皆で頑張ろう。」という閉会の挨拶があった。手じめは恒例の紀伊國屋書店 相良氏、「洋書輸入協会の仕事は引続いて担当する。仕事をするからには楽しくやろう」という挨拶により7時45分散会となった。(M. O.)



(3頁にも写真掲載)

新年懇親会.....	1	Book Review No. 89	3	住所移転のお知らせ.....	7
文化厚生委員だより		本の本 No. 24	4	お知らせ	7
ゴルフ同好会納会.....	2	外国出版社紹介 No. 92	5	来日外人名簿.....	7
海外ニュース.....	2	ニュース.....	7	総代理店ご案内.....	7
				広告.....	8

文化厚生委員会だより

ゴルフ同好会納会

早いもので72会（1972年発足）も10年の歳月を重ね、1982年の納会が、去る12月18日大日向CC（栃木）にて23名参加で盛大に開催された。12月とは思えぬ快晴、正に小春日和の一語がぴったりのゴルフ日和でした。2-3位（2名）、6-9位（4名）、10-14位（5名）、16-18位（3名）が同ネットと接戦の中、相良氏（紀伊國屋書店）がダントツ優勝の栄冠を勝ち取られました。優勝スピーチではアウト、イン共40台は始めてとのことでしたが、ゴルフを始めて2年程でも50を切る事は努力次第で可能である事を実証されました。成績は下記の通りでした。

優勝 相良廣明（紀伊國屋）

準優勝 佐藤 晃（ナウカ）

第三位 和田 茂（大洋交易）

OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
49	48	97	27	70
43	47	90	14	76
54	52	106	30	76

尚、同時に行なわれた第21回から30回までの優勝者10名（内2名欠）による3個目の72杯取切り戦は、此の一戦にピントを合わせて調整された佐藤氏（ナウカ）が記念になるカップを手中に収められた。（S. M.記）

海外ニュース

「英国の出版点数急上昇

—これまでの最高記録達成—

「ザ・ブックセラーズ」誌の報ずるところによれば、1982年の英国の総出版点数は48,307点で、このうち新刊（初版）は37,947点、重版または復刻版は10,360点であった。

総出版点数は、前年の43,038点より5,224点、12.1%の増加である。新刊は4,251点、12.6%の増加、重版は973点、19.4%の増加であった。このような大幅な伸びによって、1982年の総出版点数は、これまでの最高記録であった1980年の48,158点を抜き、記録を更新した。

分野別に見ると、美術書、児童書、科学書の三分野が僅かながら減少したほかはいずれもかなり増えている。

とくに政治、宗教、文学、医学の伸びが目覚ましい。

このような急上昇ぶりは、しかし、不況下にある英国

出版業界においては、むしろ異常な現象と見なされ、あまり歓迎されていないようだ。なぜこのように急激に増加したかの分析はなされていない。1981年に総出版点数が10.5%ほど減少したとき、出版者が「正気に戻った」と報じた業界誌が、今度は「歓迎されざる記録」と苦々しげに報じている。

（The Bookseller, 1983年1月8日号より）

「米国出版社の株価高騰」

アメリカの書籍出版社の株価は、1982年に平均40%も上昇した。とりわけ、Thomas Nelson社 91.3%、Prentice-Hall社 87.2%、Plenum Pub.社 73.0%、Addison-Wesley社 66.6%、Houghton Mifflin社 64.9%の上昇などが目立つ。

ダウ・ジョーンズの全産業の平均株価は、1982年には19.6%の上昇であったから、これと比較すれば、出版業界はかなりの好成績であったと云える。

1979年から1981年にかけて、政府の教科書等への予算削減、一般書やペーパーバックの売れ行きのかげりなどがあったため、出版社の業績は不当に低く見積られていた。今回の上昇はその反動であるとの見方がなされている。ともかく、出版社にとっては資金繰りその他様々な点で好都合な上昇である。

（Publisher's Weekly、1月21日号より）

「米国書籍の平均単価」

R. R. Bowker社の最終統計によれば、1981年に出版されたハードカバー本の平均単価は\$26.63であった。1980年は\$24.64であったから、8.1%の値上りである。

トレード・ペーパーバック本は、1980年の\$8.60から1981年の\$9.76へと13.5%値上りした。なお、文庫本サイズのいわゆるマスマーケット・ペーパーバックの平均単価は昨年10月に発表されているが、比較の対象となる1980年の数字が不確かなため、上昇率は不明である。

1982年の出版物の平均単価は、出版点数の統計とともに、本年3月11日のPW誌上に発表される予定である。

（Publishers Weekly、1月21日号より）

——紀伊國屋書店提供——

米国書店組合連合会(ABA)編 豊島宗七訳

「書籍販売の手引」

A 5 版 布装 434頁 日貿出版社(1982年11月刊) 2,800円

「A Manual of Bookselling」がオリジナル・タイトルで、そこに「アメリカ書店界のバイブル」というサブタイトルのつく本書は、1969年にアメリカで初版が刊行され、それから5年後の1974年に大巾な改訂がなされ、さらに1980年改訂3版が刊行された。ABAの編集委員会は、この改訂を、常識的な改訂以上のものであると声明しているが、今度刊行された日本版は、この1980年版の邦訳である。

全9章は、1.新たに書店をつくる。2.業務と会計と経営と。3.注文と仕入れ。4.本の販売。5.こんな本の販売方法もある。6.販売とサービス。7.広告とプロモーション。8.書店経営の道。9.附録。という構成をとり、全部で41名の筆者が、58からの項目にわたり、各自のウンチクを傾けているという大変な本である。

このような多数の著者の寄稿を編集したものには、内容も玉石混淆で首尾一貫しないものが間々あるが、本書はその点、余程優れた編集者の手を経たらしく、見事に統一されている。それに、さすが専門家と思わせる豊島氏(日本出版貿易で四分の一世紀のキャリアを持たれる)の、読みやすく、分りやすい訳も、その点大いに寄与しているようである。

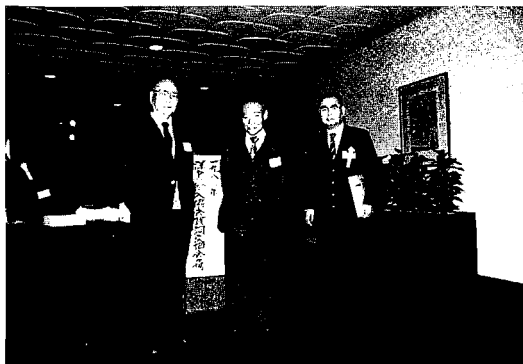
ところで、その内容であるが、例えば第一章の「新たに書店をつくる」は、1.書店を開くとき。に始まり、2.店の場所と賃貸借契約。から、3.銀行のアプローチ。にも言及し、5.店舗設計と内装。7.開店前の宣

伝活動。等を詳述した後、10.新しい店への移転。で終わっている。その10項目を各々異なる著者が担当執筆しているのであるが、いずれも自己の体験をもとにした著述だけあって、よくもここまで——と感嘆する位、微に入り細をうがったものである。一例をあげれば、「売上金の入れものには、葉巻の箱から、最高度に複雑な電子金銭登録機まで、いろいろある。」とか、「本の受入れの際は、納品書と荷札を確認し、クリップボードを使って裏書きする。このとき本を下敷代りに使うと、変な丸やイニシャルが、つややかなジャケットに写って、売物にならなくなる。」等々、我々には身に覚えのあることばかりである。

「業務・会計・経営」に関する8項目をのせた第二章は、小規模書店の損益計算書まで引用して、実務上の注意を与えている。数字が多少古い(1978年頃のものか?)ことさえ考慮すれば、我々にも大いに参考になるものがある。

各章の内容に言及するスペースがないが、通読するもよし、又、例えば販売担当者が「本の販売」の章を熟読すれば、(日本と米国との商慣習の相異などはあるにせよ)何等かの得るところがある筈である。その点、前にも述べた通り多項目にわたる本書は、拾い読みも出来る本である。「書店のバイブル」という呼び名は、或はそんなところからも、つけられたものかも知れない。

(K. S.)



中央アジア・シルクロードの洋書を溯る(8)

八 木 佐 吉

スタイン (Sir Mark Aurel Stein 1862-1943) が中央アジア・アフガニスタン地域などの大探検家・考古学者であることはよく知られているところで、あらためて書く要もないと思う。が、一応略述しておこう。イギリスに帰化したハンガリア人である。1862年ブダペストに生れ、同市及びドレスデン等で初等中等教育を卒え、ウィーン、ライプツィヒ、チュービンゲン等の大学でイラン・インド学を修め、23-24才ごろにはブダペストの軍官学校で地図学を修めた。ついでイギリスに渡り、オクスフォード大学で考古学を専攻し、ロンドン大学にも入ったという篤学の若者であった。1888年当時の著名東洋学者ヘンリー・ユール (Henry Yule, 1820-89) 等の推薦でインド・ラホールの東洋学校の校長兼パンジャブ州大学事務官に就任してインドに赴いた。まず、若き好学の学徒は、吾が好みでもあり、こころざす学問を实践するに所を得たことであった。当時インドでは、すでにイギリス・フランスの東洋学者達でサンスクリット本の研究、インド学全般の研究調査がなされていた。スタインも当然そうした分野の研纂にも従った。1900年インド政庁教育部に転じ、督学官ともなり、カルカッタの学校長ともなったりした。が、それもつかの間で、イギリス・インド政府の命で中央アジア探検に赴くこととなった。

これが1900年から1901年にわたって行われたスタインの第一回中央アジア探検行である。まことに水を獲た魚のおもいであったと想像される。1900年5月末優秀なインド人測量家を含んだスタイン隊の一行はカシミールから北上した。英国領事館・ロシア領事館があったカシュガルを経て、コータンへ進む古道をたどったという。コータン着は10月初旬。ここを根拠地として附近各地を探索した。タクラマカン砂漠の南辺沿いの地、コンロン山脈の北側一帯の地域など、タリム盆地南辺の砂漠の中の古遺跡を探索。ニヤの遺跡、ダンダンウィリクの遺跡、コータン附近で古壁画及び古文書等多数を発掘発見した。

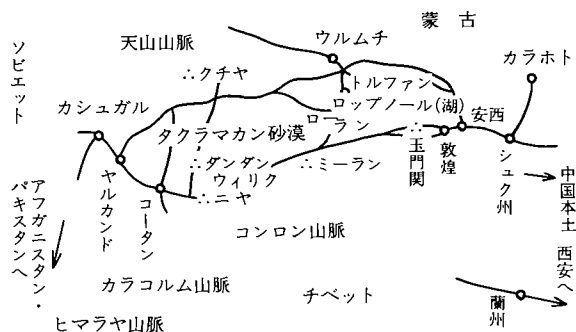
ダンダンウィリクは、1896年ヘディンが最初に発見した遺跡だが、スタインはここが、8世紀末に亡びた古代住居跡であることを証明している。ニヤの古代住民跡では、精巧で頑丈な木材構築物を発掘調査したり、3世紀中期の年記のものを含む多数の木簡を発見した。カローシュティ文字の発見、貨幣、漆器の破片、絹織物の切れ端し等多数の収集物があつた。更にエンデレの遺跡を発掘調査して、カシュガルに1901年5月中旬に帰着した。このときの帰路はロシア領トルキスタンを経て、カスピ海に出て、船、鉄道を利用して、12個の大箱の貴重な蒐集品とともに、いったんロンドンに行ってから、インドに帰った。

この探検の結果が上述の二著 *Sand-buried Ruins of Khotan*....1903. London. (Fisher Unwin). 及び *Ancient Khotan*....1907. Oxford. となつたのである。しかし、「砂に埋れたコータン廃墟」の出版はインドの公務員が公的調査の公式報告を出す前に私的記述を出版したこと、に就いて英国内で兎角の評があつたといわれている。が、ともかく、このころ(1904年)にスタインがイギリスに帰化する手続きをとり、イギリス人としての国籍を正式に得ていることも、何かこうした事情がからんでいるようにも思われる。

ともかく、先きにあげた二著が刊行された結果、スタインの名は一挙に宣伝されたといつてよい。同時に、すでに中亜に探検隊を派遣していたロシア、フランス、ドイツなどの学界ではスタインの業績に対しておどろきを新らたにしたことも事実である。さらに、わが日本の仏教界をも刺激して、大谷光瑞師が主宰した大谷探検隊が二次、三次と派遣されることにもなる。

また、1904年イギリスのロイヤル・ジョーグラフィカル・ソサエテからスタインに金牌が授けられ、他のヨーロッパの関連学会からも表彰された。同年スタインはインドの「アーキオロジカル・サアベイ」にはいつている。

なお、今年一月上旬から下旬にかけて、松坂屋本支



店で開催された朝日新聞社企画の大英図書館 (The British Library) 収蔵「敦煌・楼蘭古文書展」には、このスタイン蒐集の木簡が30点、その他文書写本多数の実物が、日本で初めて展示されていて、注目すべき展覧会であった。(解説図録も刊行された。)

余談をひとつ——本誌前号でスタインの第一回探検の公式報告書「エンシェント・コートン」が1907年6月発行された僅か数ヶ月のちに、丸善の「学鑑」にその紹介文が載っていたことを記述したが、さらに面白い写真を発見したのでお伝えしたい。丸善は鉄骨建築の社屋を新築するために明治41年春以来仮営業所住いをしていた。それが42年12月10日の未明に隣家の失火で類焼した。焼けた日の午前中に内田魯庵さんが撮影した、焼跡の現場写真が最近見つかって入手できた。その洋書がゴロゴロと無惨な様子で、煙りをあげてころがっている中にシーボルトの「日本動物誌」などと並んで、スタインの「エンシェント・コートン」の傷

ましい姿が映っているではないか。正しく、すでに輸入され在庫していたのである。

さらに魯庵が新聞社の求めに応じて、災後間もなく執筆した「丸善炎上の記」(明41.12.12)には被災の稀覯洋書の解題を加えている。

「スタインの和闐発掘の報告があった。(中略)東西文明の接触中心地たる新疆の発掘報告であって六朝盛唐の遺物の精巧なる写真百数十面を挿入する東洋古文化研究の根本資料である……アレほどの立派な研究資料をムザムザと焼いて了ったのは如何にも残念であった……」

といかにも魯庵らしい筆致で書いている。

さて、スタインはインドに帰任してから、少しく間をおいて、1906～08年間に第二回中央アジア探検調査に赴いた。この時に有名な敦煌千仏洞での古文書・仏典・仏画などの大発見と収納が行われて、世界中の関係学界をおどろかせたような事績も含まれていた。これらのことと第3回1913～16年の探検のことに就いては次回に……。

なお、スタインの伝記は、従来海外の学術雑誌などに略伝・追悼文ほどの文章が載せられたにすぎなかったが、先般アメリカで女性探検紀行家の手で詳伝が出版された。—— Sir Aurel Stein, a Biography. By Jeannette Mirsky. 1977. 8vo. 585 pp. University of Chicago Press. \$17.50 である。

外国出版社紹介 No.92

Springer-Verlag

Berlin Heidelberg New York Tokyo

Springer-Verlag は1982年に、1,011点の新タイトルを出版し、177の医学、諸科学の専門ジャーナルを発行している。バックタイトルは8,000点を擁しており、そのうち英文の出版は70%を占める。編集と出版の拠点は、ベルリンとハイデルベルクのほかにニューヨーク、ロンドン、ウィーンそして東京に及び、文字通り世界有数の英文多国籍科学出版社である。

昨今、欧米の出版社が統廃合を続けるなかで伝統的

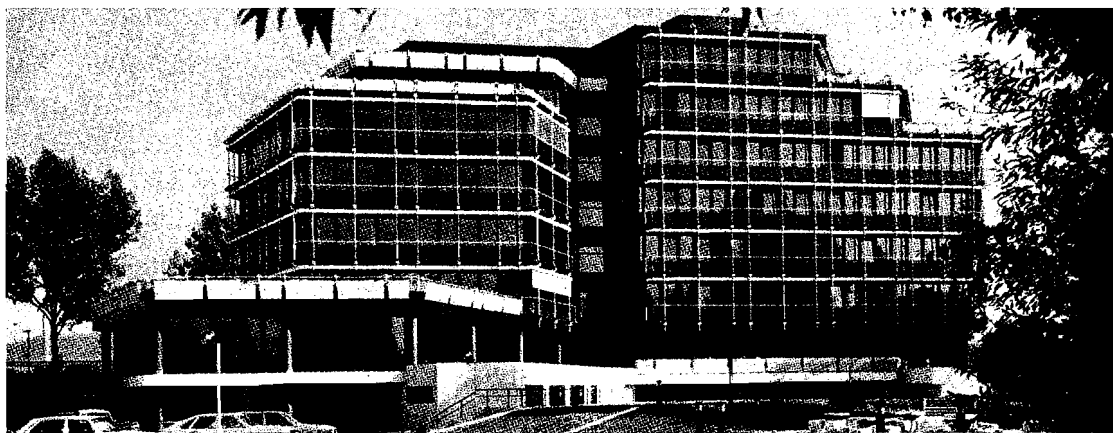
にアカデミックな出版活動を頑なに守り続けながら、それでいて新しい時代の流れによく順応し一層の発展と成功をおさめている Springer-Verlag の秘密はどこにあるのだろうか。ひとつにはその本社が西ドイツという保守と進歩のバランス感覚に満ちた成熟した経済・社会環境に育まれている点である。もうひとつは、Dr.コンラド・シュプリングер (会長)、Dr.ハインツ・ゲッツェ (社長)、及びクラウス・ミハレツ (副社長)

という3人のオーナー兼経営者が一糸乱れない統率力を発揮している点で、これは質を重んじるシュプリンガーの伝統にゲッツェ氏に代表される時代の最先端を積極果敢に先取りする企業家精神と、優れて現実的なミハレツ氏の数字感覚がうまく調和しているためである。彼らの積極性の証左としては戦後いち早く出版の英文化に乗り出したこと、国際的な販売網を確立して多国籍化に成功したこと、共産圏にも地歩を進め、ソ連や中国でも一番乗りを果たしていること、あるいは、大規模でオンライン化された近代的な配送センターをハイデルベルクに既に1977年に完成させたこと、同市内の敷地5,200坪に機能的な新社屋を完成し、今後10年余の成長に対応できるようにしたことなどに現われている。要するに、そこには、寄せ集めの企業に見られるようなトップ・マネジメントの間での確執と反目や、中間経営層特に編集者とのコミュニケーション・ギャップがない。一步社内に入ると明るくアカデミックな雰囲気が漂うが、アメリカ企業内に見られるようなくだけたムードはなくドイツ流の秩序正しさがある。この経営の継続性・均一性は1842年Julius Springerが創設し、1877年没後にその2人の息子FerdinandとFritzによって1906年まで引き継がれた。その後も夫々の息子Ferdinand Jr.とJulius Jr.が戦後1950年代迄継承し、現在は曾孫のDr. Konrad Springerと、医学の編集者から経営のトップに立ったDr. Heinz Götzeに連綿と引き継がれて来ている。

超近代的なビルに入り、editorの部屋から目を外に向けると緑の美しい風景の中から、折しも平底の船が

荷物を満載して静かに運河をすべってネッカに向かって行くのが見られる。多くの哲学者や詩人に語られ歌われた古城とネッカのあるハイデルベルク、そこにユニークな知的活動センターが息づいており、世界の科学の最先端に行く諸研究が魅力的な印刷物に変わって行く。役員会を覗いてみる。意外に若い重役達がDr. ゲッツェと白熱した議論を展開しているのが見られる。当年70歳のゲッツェ氏は世界を間断なく飛び回る国際人である。言語学者でもあったためか外国語に強く社内では電話魔と手紙魔で通るほどで、出張先から本社の3人の秘書に口述録音したカセットが毎日のように送られて来る。避暑地にあってもスキー場からでも或いは編集者に、或いは世界隅々の著者達に直接電話をかけて話しかける。Dr. Götzeの言葉を借りると、「米国やイギリスの出版者は単にビジネスマンに過ぎない。彼らは印刷部数の多いことばかり気にかけていて、著者が一体どんな人となりなのか知らないし、交渉は編集者まかせである。今日では勇気と多大な犠牲的精神を必要とするが、科学出版人は著者と読者に奉仕するプロとしての精神を片時も忘れてはいけない。これによってのみ、没个性的で味気ない出版を避け、血の通った良い本が出せるのだ。」

この精神を持って、且つ日本の重要性を考えて、ユニークな経歴の国際人である平野皓正氏を日本人ではじめて西独本社の若手重役陣の一角に入れ、この程東京にも出版子会社を設立した。今後の一層のめざましい発展が期待される次第である。(M. N.)



ハイデルベルク オフィス

ニ ュ ー ス

故田辺茂一氏一周忌の集い

紀伊國屋書店前社長 田辺茂一氏が逝去されてから一年たち、同氏の一周忌が、紀伊國屋書店の主催で、四百名の参会者をえて、12月10日午後6時からホテル・ニューオータニ鳳凰の間で開催され、故田辺茂一氏の遺徳をしのび献花された。紀伊國屋書店 松原社長挨拶の後、谷川徹三氏、服部敏幸氏が参会者を代表し、その後遺族を代表して田辺礼一氏が挨拶された。

住所移転のお知らせ

下記の通り移転通知がありましたのでお知らせします。お手もとの会員名簿を訂正願います。

新住所：イースタン・ブック・サービス株式会社
〒113 東京都文京区本郷3-37-3
☎(03)818-0861(代表)

お知らせ

このたび Springer-Verlag は、シュプリング・フェアラク東京株式会社を設立いたしました。同社の業務は日本の科学者による外国語での国際出版および洋書の国内向け翻訳出版等です。住所および代表者は次の通り。

シュプリング・フェアラク東京株式会社
代表取締役社長 平野皓正
〒133 東京都文京区本郷3-37-3
☎(03) 812-0331

来日外人名簿

12月中旬 Mr. Roy B. North, Managing Director,
Macdonald Evans, Plymouth
1月上旬 Mr. S. D. Dissel, Sales Director,
Mr. Colin Lill, Sales Manager, Kluwer
Academic Publishers Group, Dordrecht
" Mr. Jean Hirschen, Director,
Office du Livre S. A., Fribourg

総代理店ご案内

丸 善 (株) ☎(03)272-7211
The Hambledon Press, LondonAll publications

McDermot, W. V. (ed.)—Atlas of Standard Surgical
Procedures (Lea & F.)ca ¥11,550
Neufeld & Schneeweiss.—Coronary Artery Disease in
Infants and Children (Lea & F.)ca ¥ 8,250
Polak, J. M.—Immunocytochemistry: Practical
Applications in Pathology and Biology
(Wright/PSG)ca ¥15,000

(株) 三省堂書店 ☎(03)291-9456
Quirk, R.—Style and Communication in the English
Language (E. Arnold)¥ 3,000

三洋出版貿易 (株) ☎(03)669-3761
OMEC Publishing Company (U.S.A.)

.....All publications

Biotechnology Patent Digest. 26N/Year
1983—Volume 2. Air Freight only¥114,000

(株) トッパン ☎(03)295-3461
Richard D. Irwin, Inc. (U.S.A.)All publications
Business Publications, Inc. (U.S.A.) ..All publications
Dow Jones-Irwin (U.S.A.).....All publications
The Dorsey Press (U.S.A.)All publications
Robert F. Dame, Inc. (U.S.A.)All publications
Industrial Press Inc. (U.S.A.)All publications
D.C. Heath & Co. (U.S.A.)College titles only
(except Lexington books)

Digital Press (U.S.A.)All publications
Science Research Associates, Inc. (U.S.A.)

.....College titles only

Encyclopedia of Computer Science and Engineering,
2nd edition, by A. Ralston
(Van Nostrand Reinhold Co., U.S.A.).....¥32,370

Scott, Foresman Beginning Dictionary,
by E. L. Thorndike and C.L. Barnhart
(Scott, Foresmen & Co., U.S.A.)1983年刊行 ¥5,110

Scott, Foresman Intermediate Dictionary,
by E.L. Thorndike and C.L. Barnhart
(Scott, Foresman & Co., U.S.A.)
.....1983年刊行 ¥5,130

Scott, Foresman Advanced Dictionary,
by E.L. Thorndike and C.L. Barnhart
(Scott, Foresman & Co., U.S.A.)
.....1983年刊行 ¥5,290



BBC (英国放送協会) ラジオ・テレビ英語教育局総代理店

INTERNATIONAL LEARNING SYSTEMS (JAPAN) LTD. 

おかげさまで、15歳となりました。

1967年9月創立以来、数少しい英国系の英語教育出版・販売会社として、地道な活動を続けてきた当社は、みな様の暖かいご支援のおかげをもちまして、すこやかに満15歳の誕生日を迎えることができました。厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、旧に倍するご愛顧を賜りますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

さて、当社は、このほど、かねて密接な提携関係にあるBBCラジオ・テレビ英語教育局 (BBC English by Radio & Television) より日本総代理店の指定を受け、同局制作にかかる各種出版物の日本国内における販売を一手に行なうこととなりました。また、BBCが開発したオーディオとビデオの各種英語学習コース教材および関連出版物をも幅広く取扱っており、現在、すでに、下記の16タイトルを取りそろえております。どしどしご用命ください。

《ビデオ教材》

- ・ Follow Me
- ・ On We Go
- ・ Songs Alive
- ・ The Sadrina Project
- ・ People You Meet
- ・ Bid for Power
- ・ Follow Me to San Francisco
- ・ The Bellcrest Story
- ・ Challenges

- ・ The Sadrina Project (tourism)
- ・ The Bellcrest Story (business)
- ・ Bid for Power (business)
- ・ Speak Easy
- ・ Comedy Time

《オーディオ教材》

- ・ Going to work in English
- ・ In a Manner of Speaking
- ・ Medically Speaking (近刊)

取締役社長／宮本 允敬

英語教育ディレクター／アンドレア・チャーマン

インターナショナル ラーニング システムズ (ジャパン) リミテッド

〒160 東京都新宿区西新宿1-7-1 松岡セントラルビル TEL (03) 343-2311(代) EX. 34/47

昭和58年 2月

通巻第190号

洋書輸入協会

編集者 柴田 三夫

☎ 103

東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 603号室

☎ 271-6901

☎ 530

関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎ 371-5329